

【復活のトロパリ 第8調】

めぐみふかきしゅよ、なんぢはたかきより
恵深主爾高
くだり、みつかのほうむりをうけて、
降三日葬
われらをくるしみよりときたまえり、
我等苦釋給
わがいのちとふくかつなるしゅよ、こう
我生命復活主
えいはなんぢにきす。
榮爾歸

【神現祭のトロパリ 第1調】

しゅよ、なんぢが付ルダンにせんをうくると
主爾洗受時
き、せいさんしやのけいはいはあらわれた
聖三者敬拜顯
り、けだしちちのこえなんぢをしょうして
蓋父聲爾證
しあいのことなづけ、せいしんもはとのかた
至愛子名聖神鴿形
ちにあらわれてことばのたしかなるをしめ
顯言確示
せり、あらわ
れてせかいをてらし
現

し ハリスト スカ 神 み よ 、 こ う え い は なんち に き
歸
す 。

【復活のコンダク 第8調】

こ う え い は ち ち と こ と せ いしん に き 归 す 。
光 荣 父 子 聖 神 归
だ い じん じ な る しゅ よ 、 なんち は は か よ り ふ く
大 仁 慈 主 爾 墓 より 複
か つ し て 、 し せ し も の を お こ し 、
活 死 者 興
ア ダ ム を ふ く か つ せ し め た ま え り 。 エ ヴ ア は
なんち の ふ く か つ を た の し み 、 せ か い の は
爾 復 活 樂 世 界 極
て は なんち が し よ り お き た る を い わ う 。
爾 死 興 祝

【神現祭のコンダク 第4調】

い ま も い つ も よ よ に 、 ア ミ ン。
今 何 時 世 世
し ゆ よ 、 なんち は こ ん に ち せ か い に あ ら わ
主 爾 今 日 世 界 現

司祭) (黙誦: 聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、

ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有

ひとなんぢぞうしょくよつくなんぢもろもろたまものもつこれかざ
となし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾

ねがものちえめいごあたつみおこなものすそのすくいため
り、願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行う者を棄てずして、其救の爲に

つうかいたわれらいやふどうなんぢしょぼくこときおいなんぢ
痛悔を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が

せいさいだんこうえいまえたなんぢとうぜんふくはいさんえいたてまつた
聖なる祭壇の光榮の前に立て、爾に當然の伏拜讃榮を奉るに堪うる

ものしゅさいなんぢみづかわれらざいにんくちせいさんうたうなんぢ
者となしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の

じんじもつわれらのぞわれらおよじゅうじゅうつみゆるわたましい
仁慈を以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈

からだせいわれらしょうがいぜんこうもつなんぢつとえたませい
と體とを聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖

なる生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、)

司祭) 蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世

に、



【 聖三祝文 】

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる
聖神聖毅聖

じょうせいのものよ、われら等をあわれめ
常生者我等をあわれめ

よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい
聖神聖毅聖

なるじょうせいのものよ、われら等をあわれ
常生者我等をあわれ

めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、
聖神聖毅

せいなるじょうせいのものよ、われら等をあわ
聖常生者我等をあわ

れめよ。こうえいはちちとことせいしん
光榮父子聖神

にきす、いまもいつもよよに、アミン。
歸今何時世世に、アミン。

せいなるじょうせいのものよ、われら等をあわ
聖常生者我等をあわ

れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう
聖神聖毅

き、せいなるじょうせいのものよ、われら等を
毅聖常生者我等を

あわれめよ。
憐

司祭) (黙誦: 主の名に依りて來たる者は崇め讚めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國

の光榮の寶座に在りて恒に崇め讚めらる、今も何時も世世に、)

【 プロキメン 提綱 神現祭後の主日 第1調 及び神現祭 第4調 】

司祭) つしききよしゆうじんへいあん
慎みて聽くべし、衆人に平安、

誦經) なんぢしん
爾の神にも、

司祭) えいち
睿智、

誦經) プロキメン、第一の調、主よ、我等爾を頼むが如く、爾の憐を我等に垂れ

たま
給え、

しゆよ、われらなんぢをたのむがごとく、
主 我 等 尔 頼 如
なんぢのあわれみをわれらにたまられたま
爾 憐 我 等 垂 給
え。

誦經) 義人よ、主の爲に喜べ、讚榮するは義者に適う、

しゆよ、われらなんぢをたのむがごとく、
主 我 等 尔 頼 如
なんぢのあわれみをわれらにたまられたま
爾 憐 我 等 垂 給
え。

誦經) 第四の調、主の名に依りて來たる者は崇め讚めらる、主は神なり我等を照せり、



【アポストロス
使徒經 224 半端 エフェス書4章7~13節 及び
285 端 ティモフェイ前書4章9~15節】

司祭) えいち
睿智、

誦經) 聖使徒パヴェルがエフェス人に達する書の讀、

司祭) つつし 謹みて聽くべし、

誦經) けいてい われらかくじん おんちょう あた たまもの りょう したが 兄弟よ、我等各人に恩寵の與えられしは、ハリストスの賜の量に循うなり。

ゆえ い たか のぼ とりこ とりこ ひとびと たまもの あた そ のぼ 故に云えるあり、高きに登り、擴者を擴にし、人人に賜を與えたりと。夫れ登れりと

かれ ま ち もつともした ところ くだ しめ あら くだ もの かれすなわちしよてん は、彼が先づ地の最下なる處に降りしを示すに非ずや。降りし者は、彼即諸天

うえ のぼ もの こ ばんゆう み ため かれ あた もの しと よげんしゃ の上に登りし者なり、此れ萬有を充たさん爲なり。彼が與えし者には、使徒あり、預言者

あり、福音者あり、牧師及び教師あり、聖徒を全備せしめ、服役の事を行い、ハリストスの體を建てて、我等皆信と神の子を識る知識との一なるに、成全の人と爲るに、ハリ

ストスの全き成長の量に至るに迨ぶ。

(比較用 口語訳) 兄弟たちよ、キリストから賜わる賜物のはかりに従って、わたしたちひとりひとりに、恵みが与えられている。そこで、こう言われている、「彼は高いところに上った時、とりこを捕えて引き行き、人々に賜物を分け与えた」。さて「上った」と言う以上、また地下の低い底にも降りてこられたわけではない。降りてこられた者自身は、同時に、あらゆるものに満ちるために、もうもろの天の上にまで上られたかたなのである。そして彼は、ある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師、教師として、お立てになった。それは、聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ、わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。

誦經) こ まこと まったく う ことば けだしわれら これ ため ろう そしり 子ティモフェイよ、此れ信なる全くく受くべき言なり。蓋我等は此が爲に勞して謗う すなわちい かみ のぞみ よ かれ ことごと ひと こと しんじや きゅうしゅ を受く、乃活ける神に望あるに因りてなり、彼は悉くの人、特に信者の救主な

なんぢこれら こと いまし かつおし ひとなんぢ としわか もつ から すなわちなんぢ
 り。爾 此等の事を 戒め且 教えよ。人爾 の年少きを以て 軽んずべからず、乃爾
 ことば おこない に、愛に、神に、信仰に、潔淨 に於て、信者の模範と爲れ。讀書と、
 勸諭と、教訓とを、務めて、我が來るを俟て。爾 に在る恩賜、預言に由りて、長老の
 按手を以て、爾 に授けられし者を 忽 にする勿れ。此等の事を思念し、専ら之を務
 めよ、爾 の上 達が衆に 顯れん爲なり。

(比較用 口語訳) 子テモテよ、これは確実で、そのまま受けいれるに足る言葉である。わたしたちは、このために勞し苦しんでいる。それは、すべての人の救主、特に信じる者たちの救主なる生ける神に、望みを置いてきたからである。これらの事を命じ、また教えなさい。あなたは、年が若いために人に軽んじられてはならない。むしろ、言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。わたしがそちらに行く時まで、聖書を朗読することと、勧めをすることと、教えることとに心を用いなさい。長老の按手を受けた時、預言によってあなたに与えられて内に持っている恵みの賜物を、軽視してはならない。すべての事にあなたの進歩があらわれるため、これらの事を実行し、それを励みなさい。

【 アリルイヤ 神現祭後の主日 第5調 及び神現祭 第4調 】

司祭) なんぢ へいあん
 爾 に 平 安、

誦經) なんぢ しん
 爾 の 神 に も、

司祭) えいち
 睿 智、

誦經) アリルイヤ、主よ、我永く爾の慈憐を歌い、我が口を以て世世に爾の眞實を傳え
 ん、

The musical notation consists of two staves of music. The first staff starts with a G clef, a 'C' time signature, and a key signature of one sharp (F#). The lyrics are 'アリルイヤ、アリルイヤ、'. The second staff starts with a G clef, a 'C' time signature, and a key signature of one sharp (F#). The lyrics are 'ア リ ル イ ャ。'.

誦經) けだしわれい じれん なが た なんぢ なんぢ しんじつ てん かた
 蓋 我 言 う、慈 慈 は 永く 建てられたり、爾 は 尔 の 眞 實 を 天 に 固めたり、

アリル イ ャ 、 アリル イ ャ 、
ア リル イ ャ 。

誦經) 神の諸子よ主に獻ぜよ、光榮と尊貴とを主に獻ぜよ、

アリル イ ャ 、 アリル イ ャ 、
ア リル イ ャ 。

司祭) (黙誦: ひと あい しゅさい わ こころ かみ し ちえ いさぎよ ひかり かがや わ し
ねん め ひら なんち ふくいん おしえ さと たま わ うち なんち ふく いましめ
念の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誠
おそ おそれ い われら ことごと にくたい よく ふ およ なんち よろこ
を畏るる畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ
ところ おも か おこな ぞくしん せいかつ す いた たま けだし かみ
所を思い且つ行いて、屬神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神
なんち わ たましい からだ こうしよう われらなんち なんち むげん ちち しせいしづ
よ、爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善
いのち ほどこ なんち しん こうえい けん いま いつ よよ
にして生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世世に、アミン。)

【 エヴァンゲリオン
福音經 マトフェイ福音書 8端 4章12~17節 及び
ルカ福音書 94端 19章1~10節 】

司祭) 睿智、肅みて立て聖福音經を聽くべし、衆人に平安、

なんち の し んに も 。
爾 神

司祭) マトフェイ傳の聖福音經の讀、

しゅよ、こ うえい はなんち に き 役 し 、 こ うえい
主 光 荣 爾 役 し 、 こ うえい



は な ん ち に き す 。

爾 役

司祭) つつし きくべし、彼の時 イイススはイオアンが囚われたりと聞きて、ガリレヤに去れり、ナザレトを離れて、ザヴロン及びネファリムの境の内なる海濱のカペルナウムに來りて、此に居りたり、預言者イサヤを以て言われしことに應うを致す、曰く、ザヴロンの地、ネファリムの地、かいひん みち そと あ いほう くらやみ ざ たみ おおい 海濱の路にイオルダンの外に在る異邦のガリレヤ、幽暗に坐する民は 大なる光を見、死の地及び蔭に坐する者に 光は 輝 けりと。是よりイイスス始めて 教を宣べて曰えり、悔改せよ、蓋 天國は 遷 づけり。

(比較用 口語訳) イエスはヨハネが捕えられたと聞いて、ガリラヤへ退かれた。そしてナザレを去り、ゼブルンとナファタリとの地方にある海の町カペルナウムに行って住まわされた。これは預言者イザヤによって言われた言が、成就するためである。「ゼブルンの地、ナファタリの地、海に沿う地方、ヨルダンの向こうの地、異邦人のガリラヤ、暗黒の中に住んでいる民は大いなる光を見、死の地、死の陰に住んでいる人々に、光がのぼった」。この時からイエスは教を宣べはじめて言われた、「悔い改めよ、天国は近づいた」。

司祭) 彼の時 イイスス イエリホンに入りて過ぎ行けり。視よ、ザクヘイと名づくる者あり、税吏の長にして富める者なり。イイススの如何なる人たるを見んと欲したれども、人の衆きに因りて見るを得ざりき、身の長短ければなり。乃 趟り前みて、彼を見ん爲に無花果樹に升れり、彼此の 旁 を過ぎんとすればなり。イイスス此の 處 に來りし時、仰きて、之を見て曰えり、ザクヘイよ、速 に下れ、蓋 我 今 日 爾 の家に寓るべし。彼急ぎ下り、喜びてイイススを接けたり。人 皆 之を見て、怨みて曰えり、彼往きて罪人の客と爲れり。ザクヘイ立ちて、主に謂えり、主よ、我 所有の 半 を以て、貧しき者に 施 さん、若し誣いてひと 人より收りしことあらば、四倍にして之を 償 わん。イイスス彼に謂えり、今日 救 は此の家に臨めり、此の人もアブラアムの子なればなり。蓋 人の子は 亡びし者を尋ねて救わん爲に來れり。

(比較用 口語訳) イエスはエリコにはいって、その町をお通りになった。ところが、そこにザアカイという名の人がいた。この人は取税人のかしらで、金持であった。彼は、イエスがどんな人か見たいと思っていたが、背が低かったので、群衆にさえぎられて見ることができなかつた。それでイエスを見るために、前の方に走って行って、いちじく桑の木に登つた。そこを通られるところだったからである。イエスは、その場所にこられたとき、上を見あげて言われた、「ザアカイよ、急いで下りてきなさい。きょう、あなたの家に泊まることにしているから」。そこでザアカイは急いでおりてきて、よろこんでイエスを迎えた。人々はみな、これを見てつぶやき、「彼は罪人の家にはいって客となつた」と言った。ザアカイは立つて主に言った、「主よ、わたしは誓つて自分の財産の半分を貧民に施します。また、もしだれかから不正な取立てをしていましたら、それを四倍にして返します」。イエスは彼に言われた、「きょう、救がこの家にきた。この人もアブラハムの子なのだから。人の子がきたのは、失われたものを尋ね出して救うためである」。

※聖体礼儀③（金口イオアン聖体礼儀）へ